

じゅうぜん通信

05

May. 2022

TAKE FREE



発行日：2022年5月
発行：社会福祉法人十善会 十善会病院

〒852-8012 長崎県長崎市淵町 20-5
TEL.095-864-0085
<https://juzenkai-hospital.or.jp/>

病院移転から1周年 十善会病院「淵町編」始まる!

1st Anniversary

[CONTENTS]

- P1 特集「病院移転から1周年」
- P3 フロア紹介「手術室」
- P5 部署紹介「薬剤部」



社会福祉法人 十善会
十善会病院



「じゅうぜん通信」はWEBサイトでもご覧いただけます
<https://juzenkai-hospital.or.jp/>

十善会病院の基本理念

社会福祉法人病院として、地域に密着した医療を行ってきた歴史を守り
「救急から在宅まで」を目標に、患者さんが満足し、職員も満足する
病院づくりを実現することにより地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献する。

無料低額診療事業について

経済的な理由によって、必要な医療を受け
る機会が制限されることのないように、
医療費の免除を行う制度です。

【ご相談窓口】

医療福祉相談室（病院1階受付そば）

時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00

※受付にお申し出いただくか、お電話でもお受け致します。

相談担当者（ソーシャルワーカー）が面談させていただき、審査致します。

医療費に困ったら…
まずはお気軽に
ご相談ください。



お知らせ

【病院マップ】



交通アクセス

【バスでお越しの場合】

淵町バス停から徒歩1分（100m）

【路面電車でお越しの場合】

茂里町電停から徒歩約11分（800m）

【大波止ターミナルからお越しの場合】

タクシーで約9分（2.7km）

病院移転から1周年 十善会病院「淵町編」 始まる！

SPECIAL MESSAGE

病院長 笠 伸年



十善会病院は2021年6月1日に籠町から淵町に新築移転しました。日本中を席卷したアニメ鬼滅の刃には「無限列車編」や「遊廓編」がありますが、当院も開院から凡そ150年に及ぶ籠町界隈での「籠町編」が終了、新たな「淵町編」が始まりました。思い返せば、数年前から設計会社を選定し新病院設計の協議を重ね、設計図の書き直しは数え切れず、建設業者や引っ越し業者の選定から実際の移転計画、新病院での診療業務運用計画等々、こんなにも決めなくてはいけない事、やるべき事が多いものなのか！と驚きつつ奔走してまいりました。東京オリンピックによる資材高騰に気を揉み、新型コロナウイルスの波状攻撃に慄き、昨年1月には院内クラスターを経験し、移転前後は想定以上の入院患者数の減少、空床を心配しましたが、様々な逆境にも負けず職員の皆さんの頑張りと近隣の先生方の御協力、地域住民の皆さんの思いに助けら

れ何とかここまでやって来ました。気が付けばもう新築移転から1年になろうとしています。

当然ながら新病院は真新しく、空調も整っており快適に仕事が出来ます。病室も勿論ですが特筆すべきは病棟の廊下の広さ明るさで、1年経った今でも秘かに感謝しています。前病院の狭く暗い廊下に長年慣れていたので特にそう思うのでしょうか。また旧病院の弱点であった駐車場も患者さん、職員用を合わせて200台近くを確保しています。6階病室の窓から入院棟裏の広大な第2駐車場、職員駐車場を見おろすことが好きになりました。朝7時に出勤して職員駐車場で車から降りると先ず目に入るのは稲佐山山頂のテレビ塔、展望レストランの建物です。今の季節、鳥の囀りを聴きながら心地良い風を受けて（現在は新型コロナウイルスの影響で職員専用になっている）病院入口に向かって歩いて行くときは爽快です。時に猪が出没するらしい

のですが私はまだ遭遇した事はありません。

しかし無事に移転が出来たからこれでも大丈夫、という訳では決してありません。これから検討しなければならない事、改善すべき点は多々あります。耳にタコが出来た言葉かも知れませんが医療を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。少子高齢化と人口減少の中で医療の担い手の確保は大きな問題です。また、働き方改革が徐々に社会に浸透し過重労働への風当たりは強まっています。2年

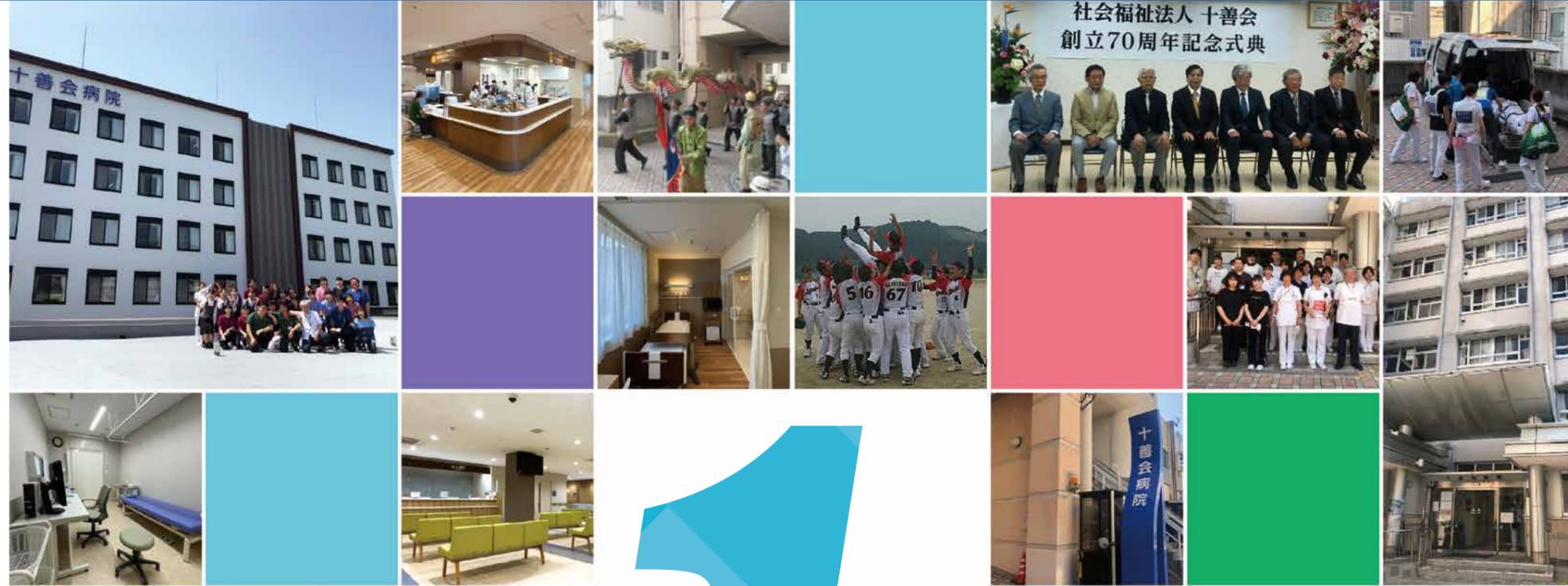
後には医師の勤務時間の厳格な管理が求められ、担い手不足の中で当直業務や救急医療の充実など相反する事柄への対応が必要になります。一方で長崎市は西洋医学の発祥の地であり全国的に見れば人口当たりの医師数も多く大学病院や複数の公的大病院があります。医療の専門化、集約化が進む中で当院の存在意義をより明確に示さなければなりません。

当たり前のことですが人間いつかは必ず死ぬ存在です。近頃ベストセラーになった「生物はなぜ死

ぬのか」注）という本によれば生物は多様性の為に死ななければならない、次の世代の為に死ななければならないそうです。とすれば医療とはある意味、本人や家族にとっての良い死に方を提供することが究極の目的なのかもしれません。人間が必ず死ぬ存在である以上、そして死にたくない、苦痛を和らげたいとの思いがある限り、どんなに高度な先進医療でもカバーし切れない人間的な部分があると思うし、大学病院や公的大病院ではうまく収まらない医療も存在

するはずで。そこに長崎において必要不可欠な当院の存在意義があると信じています。

当院の理念にもあるように「地域に密着した医療」を守り、「救急から在宅まで」患者さんに寄り添い、患者さんが満足する医療を提供すべく、職員の皆さんと力を合わせて、近隣医療機関の先生方のご協力をいただきながら、この始まったばかりの十善会病院「淵町編」の長い道のりを歩んでいきたいと考えています。



1周年

1st Anniversary

フロア紹介

手術室



スタッフ構成

手術室部長：
形成外科 近藤加代子医師
師長：1名
主任：1名
看護師：9名
看護補助者：1名
麻酔科医師：非常勤医師2名

- 日本手術看護学会周術期管理チーム認定制度習得：2名
- 第2種滅菌技士習得：2名



患者様に寄り添い、安心と安全を提供できる手術室を目指します！

手術室は新病院移転に伴い新築され、2室となりました。旧病院の3室から1室少なくなりましたが、それぞれグリーンとオレンジを基調とした暖かく広々とした手術室となっています。

2室と小規模ながら、多い時は1日に6～7件の多種多様な手術を行っています。そのため、患者様の手術入室時間が何時と約束できず、患者様のみならずご家族様にもご迷惑をおかけすることもあります。2室ながらも多くの手術を行えるのも、患者様のご理解、ご協力のおかげと感謝しております。手術を待つ患者様の不安な時間を少しでも短く出来るよう、スタッフ一同、一つの手術が終わると、次の手術の準備を手早く行い、時には先生方もモップ片手になんて事も…。そんな手術室は、スタッフ12名のうち男性看護師が4名と、優しさと力強さも兼ね備えた個性豊かなスタッフで患者様を迎えています。

今年度は6年ぶりに新卒者の配属があり、スタッフ一同、新人の頃の気持ちを思い出し、心地よい緊張感と、一緒に学ぶ姿勢で頑張ろう！と心新たにしているところです。

また、手術室では、患者様の不安の軽減を目的に、手術前から関わられるよう術前訪問を実施しております。実際にお会いしお話を伺う事で、患者様の気持ちを知り、不安や苦痛を最小限に、それぞれの患者様にあった看護計画を立案し、実践できるよう日々努めています。少しでもリラックスした状態で手術を受けて頂けるよう、好きな音楽を聞いて頂く事も可能です。お気軽にご相談下さい。

現在は全患者様とはいかないですが、術後訪問にも取り組み、患者様の術後の経過と共に、実際のお声を聴かせて頂き、今後の手術看護に活かせるよう努めております。望まぬとも手術となった患者様のために、私たち手術室看護師がいます！不安な思いに少しでも寄り添い、安心そして安全な看護が提供できる手術室でありたいと思っています。



2021年度手術件数

865件

診療科別主な手術内容



消化器外科

腹腔鏡下胆嚢摘出術・腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術・痔核手術 他

整形外科

手関節骨折・大腿骨頸部骨折など上下肢骨折手術・手根管症候群・ギオン管症候群・肘部管症候群手術・関節形成術 他

形成外科

腫瘍摘出術・顔面骨折手術・植皮術・陥入爪手術 他

脳神経外科

脳動脈瘤頸部クリッピング術・頭蓋内動脈吻合術・頭蓋内腫瘍摘出術・慢性硬膜下血腫手術 他

泌尿器科

腎摘出術・膀胱全摘出術・前立腺全摘出術
内視鏡手術（膀胱腫瘍・前立腺肥大症・膀胱結石）他

麻酔

全身麻酔 脊椎麻酔 伝達麻酔 局所麻酔

部署紹介

薬剤部

+ PHARMACY



お問い合わせ先

TEL 095-864-0085 (病院代表番号)

FAX 095-801-2646 (薬剤部直通)



病院 WEB サイトもご覧ください



薬剤部の主な業務内容

※詳細は病院ホームページでご覧になれます

- 処方監査業務** 処方内容の妥当性を評価します
- 調剤業務** 評価した処方に基づき調製します
- 服薬指導業務** 薬の説明を行い必要性や注意事項を指導します

抗がん剤注射無菌調剤業務

外来・入院の抗がん剤注射を無菌的に調製します

医薬品情報管理業務

薬の情報を収集し、情報の質に応じて発信します

病棟業務

全病棟に薬剤師を配置し薬学的管理指導を行い、患者さんを中心としたチーム医療を担っています



医療の質向上のためのシステム導入

薬剤部では病院移転と同時に TOSHO 社の調剤支援システムを導入しました。処方箋上のバーコードと薬剤それぞれのバーコードをチェックすることで、調剤時の薬剤の取り間違いを防止し、調剤ミスによる患者さんへの不利益の予防に貢献しています。注射剤に関しても、同システムを利用することで薬剤の取り間違い・患者間違いをシステムとして防ぐことができますようになっています。



散剤監査システムも同時期に導入し、分包機へのデータ送信が可能になりました。該当患者ごとの散剤の全体量の計算・秤量後の薬剤量のバーコード印字・分包機への指示・分包品へ内容薬剤名・内容量の印字など、これまでは薬剤師が行っていた作業をシステムで一貫して出来るようになりました。これらのシステムを導入することで人的過誤や人的コストを大幅に減らすことが可能になり、その分、薬剤師はより質の高い医療へ参画することが可能になります。

お薬受け取り窓口について



淵町に病院が移転し、薬剤部は1階救急外来の隣となりました。休日や時間外の救急外来の患者さんには、このお薬受け取り窓口からお薬をお渡ししています。救急外来診察後は受け取り窓口付近でお待ちください。また、ご入院された患者さんが退院する際のお薬や、入院時に持参されて病院でお預かりしたお薬、お薬手帳などもこの窓口よりお返しいたします。1階会計窓口での入院費等の清算後、案内がありましたら必ず薬剤部へお寄りになってください。(通常の外来受診の患者さんにおきましては、院外処方箋を発行いたしておりますので、こちらの窓口にはお寄りいただく必要はありません)



医療関係者の皆様へ

薬剤適正使用連携について

かかりつけ医と入院医療機関等が連携して行う医薬品の適正使用の取り組みを行っています。当院薬剤部は、入院患者全員に行う病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務を通じて、薬剤の適正使用並びに患者様のコンプライアンス、アドヒアランス向上のため、必要に応じて用法の単純化や薬剤の整理を行います。その場合、患者さんもしくはご家族を通して『薬剤サマリー』の情報提供を行います。『薬剤サマリー』を以後の診療にお役立ていただければ幸いです。